

第 16 回鋼構造シンポジウム 「低層鋼構造建物の完全倒壊までの余裕度」

主催：日本建築学会中国支部

共催：日本建築構造技術者協会中国支部，協同組合広島県鉄構工業会

講師：多田 元英 先生（大阪大学 名誉教授）

日時：12 月 09 日（土）15:00~17:00

会場：TKP ガーデンシティ PREMIUM 広島駅北口 ホール A3（広島駅北口より徒歩 5 分）

（<https://www.kashikaigishitsu.net/facilitys/gcp-hiroshimaeki-kitaguchi/access/>）

対象：本会・共催団体会員,建築技術者,大学院生,大学生

問合せ：広島工業大学 工学部 建築工学科

山西央朗 t.yamanishi.ev@cc.it-hiroshima.ac.jp

内容：

鋼構造建物は靱性の高い構造とされており，実務設計においても大変形繰返し挙動の性状を多分に含めて設計される．このように大変形域を強く意識しながらも，完全倒壊に至るまでの過程を鮮明に理解することは容易ではなく，定性的・各論的なものとなり易い．特に，部材レベルの脆性挙動（破断，座屈等）と構造物倒壊挙動との相互関係については強い関心が集まる部分である．

本シンポジウムは，多田元英 先生が研究されてきた“地震時倒壊性状の追跡”についてご講演いただく．今後，耐震安全性を考える上での基点を学べると考えており，建築構造に関わる技術者，ならびに大学生・大学院生の積極的な参加を期待する．